



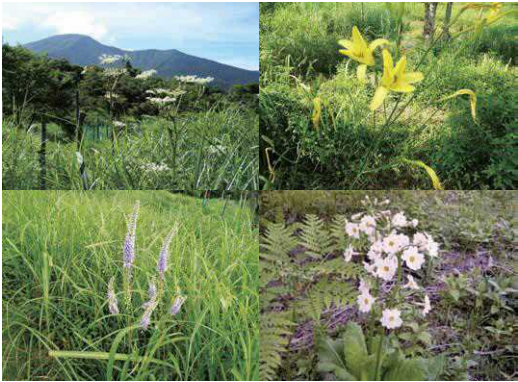
最優秀賞 静岡県知事賞

富士山こどもの国 花の谷 (富士市)

受賞者 富士山こどもの国 山野草研究会
静岡県富士山こどもの国



アクセス 新東名「新富士IC」から車で約20分、
東名「裾野IC」から車で約20分
所在地 富士市桑崎 1015



富士山こどもの国と周辺地域の大部分は、植林など過去に人為の影響を強く受けた植生から成っていましたが平成4年度の環境調査で722種類もの植物が確認され、潜在的な自然の豊かさが確認されました。

平成11年に開園した富士山こどもの国では基本理念を“次代を担うこどもたちが、雄大な自然の中で友達や家族と元気にのびのびと遊ぶことを通じて、生命の貴さや自然の豊かさを学び、夢や冒険心を育むことができる場として、また地域や利用者が交流できる場としての公園運営を目指す”としています。

花の谷は綺麗な花が咲く植物を始め、絶滅が危惧されている植

物を園内の建設工事現場等から移植し、また周辺地域からも種子を採取してポット苗を作り植え付け整備しました。開園後は山野草研究会が草刈りやポット苗の補植、イノシシ等の食害防止対策、利用者への情報提供等に取り組んでいます。この結果、数年前から植生が安定し、この地域にふさわしい綺麗な花の群生や百花繚乱の景観を鑑賞でき、吸蜜に訪れる蝶やハナバチの様子も観察できるようになりました。

富士山の大きなスケールの下、利用者や地域の団体等がこの豊かな自然の中で交流できる場として活用いただいております。

審査委員より

約30年に渡る富士山こどもの国山野草研究会の山野草の移植・育成・管理等の活動による花の谷の景観形成への貢献は非常に素晴らしく、富士山山麓の様々な環境要素が織りなされて出来る植生は、手つかずの環境だけで作り上げられたものではなく、活動の中で、一つ一つその形を成してきたたまものです。

絶滅危惧種を含む自生種・在来種の保護観察、育成、教育プログラム提供といった地道な活動は、未来の子供たちへ残すことができる地域最高の景観資産の一つとなるでしょう。